日本呼吸器学会・日本呼吸理学療法学会 合同ステートメント

木洩れ陽 2032（COMORE-By2032）に資する呼吸リハビリテーションの推進と、理学療法領域からの COPD 早期発見（case finding）について

2026 年 11 月 5 日

合同ステートメント

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は、進行性の呼吸機能障害を来しうる一方、適切な介入により症状・運動耐容能・QOL の改善が期待できる疾患である。日本呼吸器学会は、2032 年までの COPD 死亡率減少を目標に「木洩れ陽 2032（COMORE-By2032）」を推進し、その実行モデルとして「早期受診の促進」「診断率の向上と適切な治療介入」を掲げている。

呼吸リハビリテーションは、包括的評価に基づく運動療法・教育・患者支援から構成され、COPD において呼吸困難の軽減、運動耐容能の向上、健康関連 QOL の改善が明確に示されている。さらに、増悪後（入院後）早期の呼吸リハ導入は、再入院や死亡リスクの低減と関連することが報告されており、急性期～回復期～地域への切れ目ないシームレスな導入と継続が望まれるものである。一方で、さまざまな普及の障害があり、医療提供・施設間紹介・提供継続が実施されていない。木洩れ陽 2032 の「適切な治療介入」実践するためには、呼吸リハビリテーションの一層の普及が急務である。

また、COPD の確定診断にはスパイロメトリーが必須であり、症状やリスク因子を踏まえた「疑い例の抽出→検査・専門医連携」が診断率向上の鍵となる。呼吸理学療法に限らず、心臓、整形外科・脳血管・がん/周術期リハ等の運動療法の現場で、運動負荷に不釣り合いに強い、または遷延する労作時呼吸困難がみられる場合、潜在する COPD の存在に気づく契機となり得る。COPD は他疾患の生命予後を悪化させる併存病態という側面もあるため、理学療法領域での普及啓発が重要である。

共同の取り組み

1. 呼吸リハビリテーションの普及と質の担保：標準的患者評価に基づく運動療法・栄養療法・教育・行動変容支援を、急性期～慢性期～地域で切れ目なく提供できる体制整備を支援する。

2. 増悪後（入院後）早期からの呼吸リハビリテーション導入の促進：退院支援・地域連携の中で、早期導入と治療継続を推進する。

3. 理学療法領域からの COPD 早期発見（case finding）と連携強化：他疾患の運動療法実施中に、実施の支障となる呼吸困難・息切れなど、COPD や他の内臓疾患（心疾患など）が疑われる所見を認めた場合、当該科（呼吸器内科をはじめ、循環器内科など）への紹介につながる院内・地域の動線整備を促進する。

4. 国民・医療者への啓発と関係団体との協働：木洩れ陽 2032 の実行モデルに沿って、早期受診・診断率向上・適切な治療介入を後押しする啓発活動を展開する。

両学会は、学会ホームページ等での相互情報提供、研修機会の拡充、現場で実装可能な連携ツール（紹介基準・チェックリスト等）の整備を通じて、COPD 死亡率減少に資する取り組みを推進してまいります。

署名

一般社団法人 日本呼吸器学会 理事長　西岡 安彦

木洩れ陽 2032 関連ワーキンググループ WG 長　室 繁郎

一般社団法人 日本呼吸理学療法学会 理事長　玉木 彰

参考

- 日本呼吸器学会. 木洩れ陽 2032（COMORE-By2032）特設ページ.（参照日：2026-01-02）
- 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会／日本呼吸理学療法学会／日本呼吸器学会
  呼吸リハビリテーションに関する新ステートメント　日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌
  2018 年第 27 巻　第 2 号

- Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease (GOLD). Global Strategy for the Diagnosis, Management, and Prevention of COPD: 2026 Report. (2025/11 公開)
- Spruit MA, Singh SJ, Garvey C, et al. An official American Thoracic Society/European Respiratory Society statement: Key concepts and advances in pulmonary rehabilitation. Am J Respir Crit Care Med. 2013;188(8):e13-e64.